



第53回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会  
第16回日本精神保健福祉士学会学術集会

このシンポジウムは平成29年度大阪府自殺対策強化事業補助金の交付を受けています

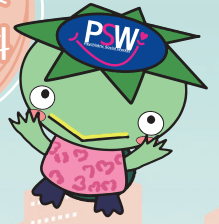
情報保障  
手話通訳  
要約筆記  
あり

市民公開講座・シンポジウム

# 自殺予防対策と ソーシャルワーク

～『生きる』を支える社会へ～

申込不要  
参加費無料



シンポジスト

上野 千佳氏

大阪府健康医療部  
保健医療室  
精神保健福祉士



シンポジスト

伊藤 次郎氏

特定非営利活動法人  
OVA代表理事  
精神保健福祉士



シンポジスト

佐藤 まどか氏

カウンセリングスペース「リヴ」代表  
社会福祉士  
スクールソーシャルワーカー



シンポジスト

江田 暁子氏

株式会社LITALICO  
ライフネット支援室  
精神保健福祉士



ゲストコメンテーター

横山 北斗氏

特定非営利活動法人  
Social Change Agency 代表理事  
社会福祉士

コーディネーター

金 文美

一般社団法人  
大阪精神保健福祉士協会 副会長

2017年 9月16日 土

13時～15時 受付開始12時30分  
定員1000人

大阪府立国際会議場 (グランキューブ大阪)

5階 メインホール

京阪電車・中之島線「中之島」駅②番出口すぐ

■ JR大阪駅より

◎ 駅前大阪市営バスターミナルから大阪市営バス(53系統/船場橋駅行)または(55系統/鶴町四丁目)で約15分「堂島大橋」バス停下車すぐ

◎ 地下鉄四つ橋線に乗換、西梅田駅から一駅、「肥後橋」駅下車、3番出口より徒歩約15分

■ JR東西線 「新福島」駅、3番出口より徒歩約10分

■ 阪神電車 「福島」駅、西3番出口より徒歩約10分

【主催】公益社団法人日本精神保健福祉士協会 【運営協力】公益社団法人日本精神保健福祉士協会大阪府支部、一般社団法人大阪精神保健福祉士協会

【後援】厚生労働省、大阪府、大阪市、堺市、(一社)大阪精神科病院協会、(公社)大阪精神科診療所協会、(公社)大阪社会福祉士会、(特非)大阪医療ソーシャルワーカー協会、大阪ソーシャルワーカー協会、(公社)大阪介護支援専門員協会、(公社)大阪介護福祉士会、(公社)大阪府看護協会、(一社)日本精神科看護協会大阪府支部、(一社)大阪府作業療法士会、大阪府臨床心理士会、(公社)大阪府精神障害者家族会連合会、大阪府精神障害者地域生活支援連絡協議会、大阪府精神障害者連絡会、(社福)大阪府社会福祉協議会、(社福)大阪市社会福祉協議会、(特非)大阪精神医療人権センター、朝日新聞社、読売新聞社等(一部予定を含む)

問合せ (全国大会・学術集会事務局) 公益財団法人 浅香山病院医療福祉相談室 〒590-0018 大阪府堺市今池町3丁3番16号 TEL 072-229-4882(代)  
(本部事務局) 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3四谷オーキッドビル7F TEL 03-5366-3152

グランキューブ大阪横/中之島パックスにて同日開催

diversity♥fes

ピアサポーターイベント、ライブ(ちめいと、松浦正樹 from ANATAKIKOU、川嶋亜奈睦)、映画「さにときたらええやん」上映や事業所出店など(荒天の場合、中止になることがあります。)

(主催)大阪精神保健福祉士協会 / (運営)diversity♥fes実行委員会





第53回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会  
第16回日本精神保健福祉士学会学術集会

このシンポジウムは平成29年度大阪府自殺対策強化事業補助金の交付を受けています

情報保障  
手話通訳  
要約筆記  
あり

申込不要  
参加費無料



市民公開講座・シンポジウム

# 自殺予防対策と ソーシャルワーク

～『いきる』を支える社会へ～

我が国では、生活困窮の連鎖、雇用における過労やパワハラ、いじめや孤立等、若者を取り巻く社会情勢には課題が山積しています。15～39歳の年代の死因の第1位が自殺となっているのは主要先進7か国の中でも日本のみであり、国際的にみても深刻な状態となっています。厚生労働省が発表した3月全国意識調査では、「本気で自殺したいと思ったことがある」と回答した人は23.6%のほり、メンタルヘルスの危機の高さを示しています。このよ

うな中「いきる」ことを支えるための社会と支援の構築の必要性を強く感じます。

本シンポジウムは、インターネット・ゲートキーパー、就労、行政、自死遺族支援などに取り組む5人のソーシャルワーカーと若い世代の一人一人の「いきるを支える」ため、ソーシャルワーカーと市民はそれにどう対峙し、社会に働きかけるのかを考えるシンポジウムです。

## シンポジストからのメッセージ

### シンポジスト

#### 伊藤 次郎氏

特定非営利活動法人OVA代表理事

子ども・若者の自殺の深刻な状況に強い問題意識をもつとともに、自殺念慮を抱える若者への接近として「インターネット・ゲートキーパー活動(夜回り2.0)」を開発しました。若年層の自殺ハイリスク者に対し、ネットから介入し、社会資源へつなぎ、見守ることで、相談者の「生きる」を支えています。(学習院大学法学科卒業。EAPプロバイダー、精神科クリニックにて復職支援に従事。朝日新聞「ひと」、NHK「ハートネットTV」などメディア掲載多数)

#### 江田 暁子氏

株式会社LITALICOライフネット支援室

ライフネット支援室では、サービス職員のゲートキーパー研修、支援記録から人工知能を活用したリスクへの取り組みなどの実践をしています。死にたい気持ちを聞いてもらうことで孤独感や孤立感が和らぐなど「訊く」ことは自殺リスク低下に効果があると日々の対応で実感しています。弊社の実践が自殺予防や対応の一助になれば幸いです。

(ウイリアムウッズ大学社会福祉学科卒。精神科クリニックのデイケアの相談業務などを経て2009年に(株)LITALICO入社)

#### 佐藤まどか氏

カウンセリングスペース「リヴ」代表

自死遺族のカウンセリング、子ども、パートナーや親を自死で亡くした方の会などを行っております。自死遺児であった自分、接してきた多くの自死遺族、どれだけカテゴリーに分けても同じこと、同じ人などいません。自死遺族と言うモデルではなく「その人」と付き合っていくことの大切さを感じています。(1992年リヴを立ち上げ、2002年5月自身が自死遺児であった体験から、「親の自死を語る会」を開始。「自殺防止・遺族支援」「子どものぐりーふサポート」等講演講師)

#### 上野 千佳氏

大阪府健康医療部保健医療室地域保健課

大阪府は平成21年度から国の自殺対策緊急強化基金にて自殺対策に取り組み、自殺対策推進本部・自殺対策審議会の開催、大阪府自殺対策指針の策定を行うとともに、他部局、府内市町村への働きかけと連携に努めてきました。行政は何を考え、どんなことに取り組んでいるのかを知っていただき、また市民ができることは何なのかを考えるきっかけになればと思っています。

### ゲストコメンテーター

#### 横山 北斗氏

特定非営利活動法人Social Change Agency  
代表理事

当法人では「当事者・支援者協働のソーシャルアクションプラットフォームをつくる」をミッションに、養成、連携協働、情報発信事業を行う。人が問題を抱え、死を考えるに至ることを想像した時、ソーシャルワーカーとして、また今を生きる一市民として何ができるのか、という問いについて考え、私自身も行動を変える契機としたいと考えます。

(神奈川県立保健福祉大学卒業後、MSWを経て2015年同法人設立、メールマガジン「ソーシャルワークタイムズ」編集長)

### コーディネーター

#### 金 文美

一般社団法人  
大阪精神保健福祉士協会 副会長